

京都市の農林業



京都市の農林業

——自然と人間の共生——
——農林業と都市の共存——
——市民と農林家の共住——

発行日 平成20年3月
発行者 京都市産業観光局 農林振興室
京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地
TEL075-222-3351 FAX075-221-1253
京都市印刷物 第203011号



自然と人間の共生

農林業と都市の共存

市民と農林家の共住

京都市

京都市の農林業

京都市では、市域面積の77%を農地と森林が占め、各地域によって気候風土が異なることから、古くから多種多様な農林産物が生産され、農林業が盛んに行われてきました。

市街地を囲む緑豊かな三山や、市街地内に多く残される農地は、京都市の自然環境を生かしたまちづくりに大きく貢献し、山紫水明の都を形成する礎となっています。

また、京北や北部山間地域を中心とする豊かな森林は、水源のかん養や保健文化機能等の公益的機能も有し、災害からまちを守り、訪れる人に深い精神的充足を与えています。



振り売り

農家が収穫したものを直接各家庭へ売りに回ります。大八車も現在は軽トラックに変わりつつあります。



整然と立ち並ぶ北山杉

北山丸太は、その素材の緻密さ・滑らかさ・光沢から数寄屋建築の素材として用いられ、約600年の歴史の重みを持つ京都の伝統工芸品です。



京北地域

右京区京北地域は、桂川の源流に位置し、周囲を緑豊かな山々に囲まれ、田園風景が広がり、農山村における伝統・文化を多く残しています。

京都市基本構想 (京都市基本計画)

目 次

- 1 京都市の農林業地域 3
- 2 主な農林業施策 5
- 3 グラフで見る京都市の農林業 11
- 4 京都市の農林業マップ



京都市農林行政の 展開方向

環境に優しい農林業の持続的展開

- 農林地の保全と農林業生産環境の整備
 - 活力ある農林業の推進
 - 環境に優しい農林業の推進
 - 多様な担い手の育成・確保
 - 市民生活に密着した農林産物の生産・流通体制の整備と需要拡大

農林業の持つ多面的機能を生かした まちづくり・ひとづくり

- 緑の景観を生かしたまちづくり
- 農林業の持つ防災機能を生かしたまちづくり
- 農林業によるひとづくり
 - 農林業によるひとづくり
 - 医療・福祉分野への活用
 - 文化の継承と創造

市民と築く農林業 (市民と農林家のパートナーシップ)

- 都市と農山村の相互交流
- 市民と農林業の触れ合いの促進
- 地域住民と農林家の相互理解

京都市の農林業地域

京都市では、農林業を地域特性等から、市街化地域、都市近郊農林業地域、北山林業地域、近郊林業地域に分類しています。

京北農林業地域

農業においては、水稻生産が6割を占めていますが、都市近郊と気象条件を生かした野菜生産も盛んです。林業においては、古くから京都市中心部への用材供給地として知られ、特に、スギの適地として優良材の生産が行われております。育林から生産、加工、流通に至る一貫した生産システムの整備が進んでいます。



水路等の草刈りや獣害防除柵の設置など、生産環境の保全を集落ぐみで行っています。



アユの友釣りのメッカ上桂川。日本を代表するプロの釣師もこの川から多く輩出されています。



市内唯一の原木市場では、京都市域の優良材が集荷され、せりにかけられています。

北部農林業地域

左京区花脊峠以北の5集落と右京区嵯峨越畠、櫻原地域からなり、そのほとんどが森林で、豊かな自然と伝統文化が数多く残っています。いずれの集落も高齢化が進んでおり、木材需要の低迷も相まって、総じて地域活力が低下傾向にあります。

久多、越畠、櫻原地域では土地基盤や各種施設等が整備されるとともに、花脊峠以北では山村都市交流の森を中心に都市住民との交流活動など、また越畠地区では、観光農村による地域の活性化を目指した取組が進められています。



山村都市交流の森内の施設
(↑:森愛館、→:翠峰荘)

北山林業地域

市の西北部に位置し、右京区、北区、左京区の一部からなり、床柱材である「北山丸太」を中心とした高い生産技術を有し、林業に対する依存度の高い地域です。しかし、近年の建築様式の多様化などにより、丸太需要の低迷傾向は顕著で、地域社会の活力の低下も懸念されています。このため、北山丸太のブランドイメージを生かした新たな商品開発、森林景観対策や高度な技術を持つ林業労働者の育成などが必要となっています。



北山丸太生産の伝統技法「本仕込み」



丸太せり売り



- 京北農林業地域
- 北山農林業地域
- 近郊林業地域
- 農業振興地域
- 農業保全地域
- 市街化地域 (市街化区域)

都市近郊地域

農業振興地域

農業振興地域を中心として、水稻、野菜、花き、果樹栽培等多様な農業が展開され、静原、大原、大原野、勧修寺、向島地域では、計画的に土地基盤や生産施設などの農業生産基盤の整備が進められています。また、観光農村や体験農園、特産物育成等の地域の農業資源を生かした特色ある地域づくりも進められています。



静原コスモスフェア



大原野地域



都市農村交流拠点施設「里の駅 大原」

市街化地域

市街化区域農地は、市内全農地の約8割を占め、その内の約86%が生産緑地に指定されています。この地域は京の伝統野菜など昔ながらに野菜作が盛んで、生産性の高い集約農業が営まれ、市民への新鮮な農作物の供給とともに、都市の緑地空間として市民生活に極めて重要な役割を果たしています。しかし一方では、都市化の進展によって、生産環境が悪化し、生産・経営を巡る状況は年々厳しくなっています。



生産緑地



体験学習

1 農林地の保全と農林業生産環境の整備

農地・森林の有する本来の生産機能に加え、国土や環境保全などの多面的な機能を維持するために、土地基盤の整備をはじめ生産・加工・出荷施設の整備や林道・作業道等の整備を進めています。

**2 活力ある農林業の推進**

農林業機械・施設等の導入・経営の合理化を積極的に進め、京野菜・花き・磨丸太など付加価値・収益性の高い多様な農林業を推進しています。

**3 環境に優しい農林業の推進**

環境への負荷を極力軽減した持続可能な農林業生産活動を継続するため、リサイクル堆肥であるコンポスト（樹木剪定堆肥）の使用や減農薬・減化学肥料栽培を積極的に推進するとともに、長伐期施業などの森林管理を通して、健全な森林の育成を図っています。

**4 多様な担い手の育成・確保**

多様な担い手を育成するとともに、農林業後継者組織や女性農業者グループの活動を支援しています。

**5 市民生活に密着した農林産物の生産・流通体制の整備と需要拡大**

杣人（そまびと）工房を各区に設置し、京都の気候風土の中で育ち環境負荷の低い市内産木材（みやこ杣木）の需要拡大を呼びかけています。



環境負荷が低く、減農薬・減化学肥料で栽培された栄養価の高い野菜を「京の旬野菜」として認定するとともに、販売促進キャンペーンを実施し、市民に消費拡大を呼びかけています。



木材・木製品・磨丸太等の展示販売、地域の情報発信、林業関係者の研修などを行っています。



1 緑の景観を生かしたまちづくり

農地、森林は、古都・京都の景観や地域の生活環境を構成する重要な役割を担っています。



すぐき菜の作付と比叡山

2 農林業の有する防災機能を生かしたまちづくり

市域の77%を占める森林や農地は、洪水防止、水資源管理、土壤浸食・土砂崩壊防止等の公益的機能を持っており、農林業生産活動を維持していくことが今後ますます重要になっていきます。また、都市における農地も雨水の一時貯留や延焼の防止など都市防災上重要な役割を担っています。



3 農林業によるひとづくり

農林業体験は、自然に親しみながら命を育てる大切さを教え、豊かな人間性を育むとともに、医療、福祉面でもその価値が見直されています。

間伐体験学習
間伐体験を通じて、森林づくりの大切さを学びます。
森林ハイキング未来の農業サポーター育成事業
伝統野菜「みず菜」の移植作業。児童の小さな手が未来の農業を支えます。

4 文化の継承と創造

農村地域には、様々な文化や伝統行事が今も数多く残されています。



左京区久多地域の「どんと焼き」



愛宕信仰を表す「松上げ」は、若狭街道沿いの集落で伝承されている行事です。



茅葺民家が、今なお各地域に残っています。



実りの秋、京北山国地区では、時代祭りの先頭で有名な勤皇山国隊の行進が行われます。

京の伝統野菜

明治以前から栽培されていた伝統野菜(28品)の内、栽培の少なくなったこれらの18品目について、種子及び栽培技術の保存を図っています。



新京野菜

西京区大原野地区に「開発野菜種子配布センター」を設置し、生産者や京都大学の協力を得て開発した野菜の有望品種の種苗を生産し、市内の農家に有償配布することにより、京都の気候風土に適した新しい野菜の開発・導入を進めています。



1 市民と農林業のふれあいの促進

農林業体験などのイベントを通じ市民との交流を進めています。



アユの友釣り初心者教室

水とその資源保全の重要性を広く啓発するとともに、友釣り人口の増加による地域の活性化を図るために毎年夏に開催しています。



宇津峠公園

上桂川の清流を生かし、オートキャンプ場やコテージなどの施設も充実し、レジャーの場として人気を博しています。



山村都市交流の森（左:雪遊びフェスタ、右:もくじゅの木工教室）



京北森林公園のきのこ狩り

きのこ狩りや山菜摘みなど豊かな自然が満喫できるイベントを開催しています。



ふるさと森都市フェスティバル
北部山間地域の活性化を図るために毎年夏に「山村都市交流の森」で開催しています。



京北森林公園のきのこ狩り
きのこ狩りや山菜摘みなど豊かな自然が満喫できるイベントを開催しています。



花と緑の市民フェア

市内の花き振興のために、毎年春に京都市花き振興協会とともに開催しています。



京の農林秋まつり

市内の農林畜産物の即売、体験、啓発イベントとして毎年11月初旬に開催しています。



大宅農藝ひろば

クラブハウスを備えた市民農園（下の写真奥）。交流イベントも毎年開催されています。



2 地域住民と農林家の相互理解

農地・水・環境保全向上対策

農家と自治会・学校等が共同で農業用水路の清掃作業にあたるなど、地域資源や環境を守る取組の輪が広がっています。



地域にある竹材を使い、地元の高校生とともに花壇づくり（深草地域）
清掃活動に加えて農道沿いに竹を使った不法投棄防止柵も設置し、荒れた竹林の再生とともに、美しい景観が復活しました。



天空の市民農園　市内を一望できる景色を楽しみながら、市民が農家になって土に親しむ市民農園です。



勤修寺観光農園
ブドウやいちご狩り、いも掘りなどが気軽に楽しめる場所として定着しています。



農業用ため池の「水抜き」生き物調査（大原野地域）
外来魚駆除による本来の生態系への回復とともに、底泥への酸素供給（冬期池干し）は水質改善に効果があります。



遊休農地を開墾し、観光梅園として再生し有効活用（大原地域）
遊休農地の解消、地域の景観保全、梅加工品の特産化などの効果が期待されます。



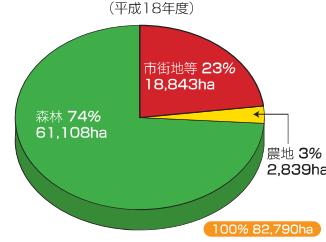
朝市

生産者と消費者の顔の見える朝市「大原朝市」

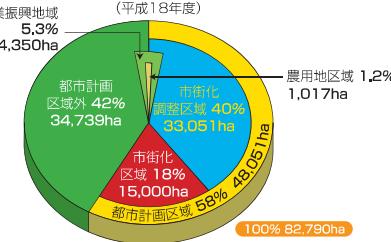
3

グラフで見る京都市の農林業

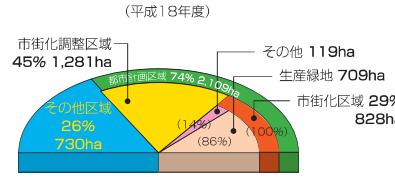
1 市域に占める森林、農地面積
(平成18年度)



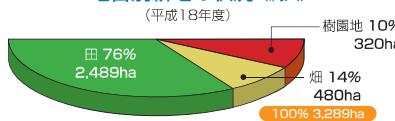
2 市域の区域別面積
(平成18年度)



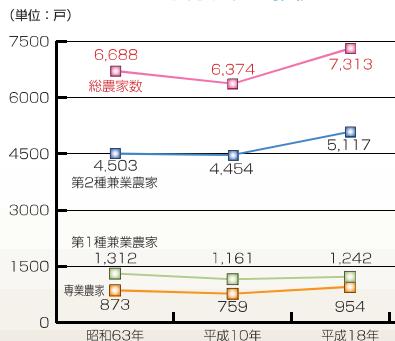
3 区域別農地面積の状況
(平成18年度)



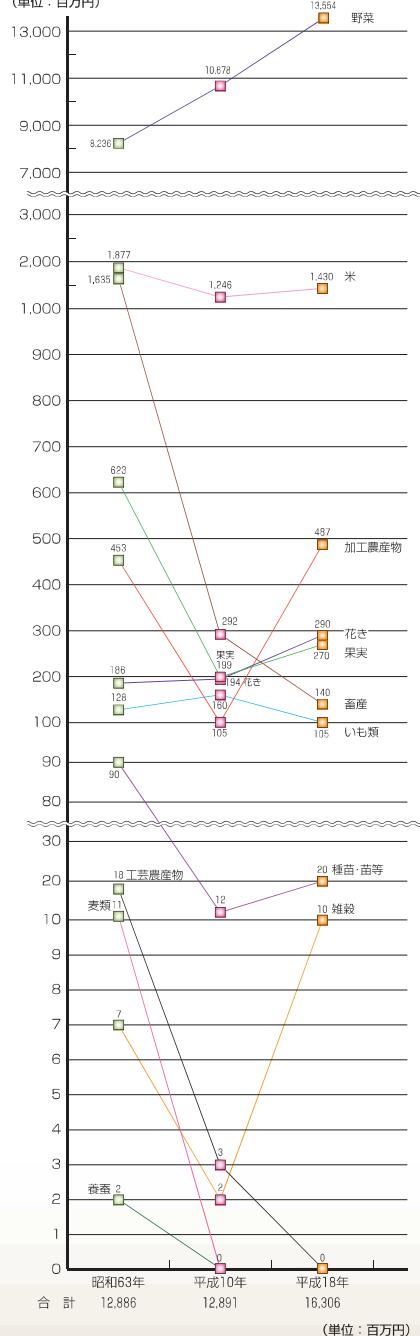
4 地目別耕地の状況(属人)
(平成18年度)



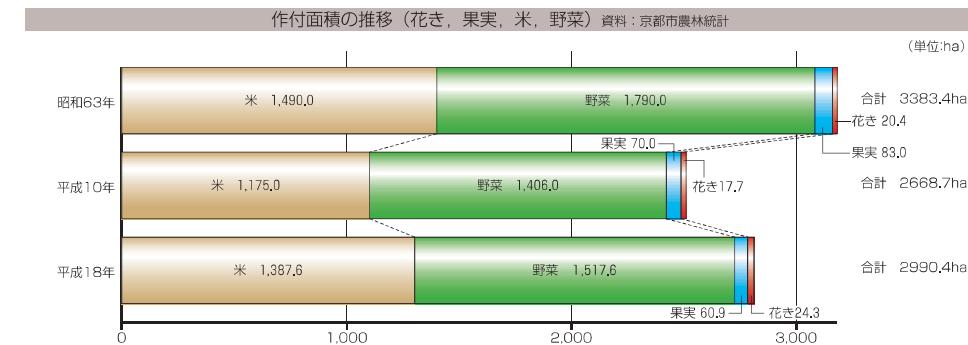
5 農家戸数の推移



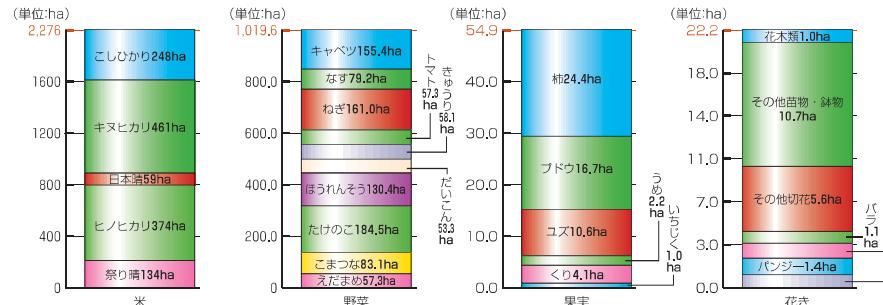
6 農業粗生産額



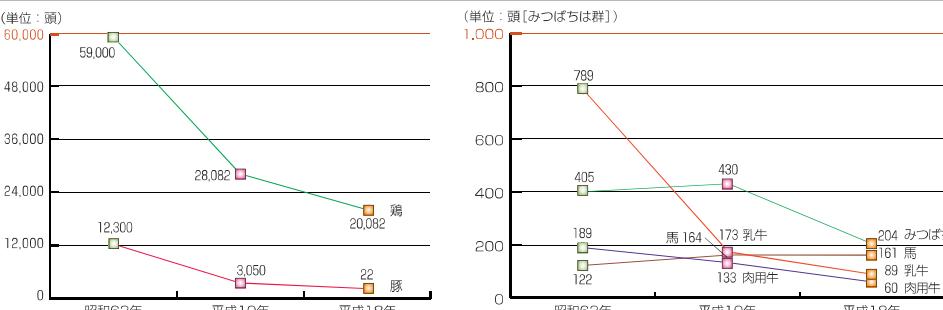
7 主要農林作物の状況



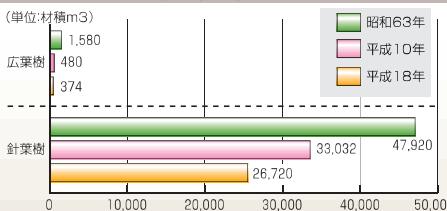
主要品種別作付面積(米、野菜、果実、花き) 資料: 京都市農林統計(平成18年度)



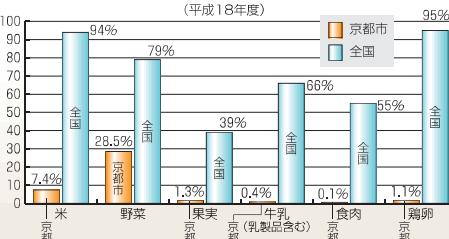
家畜頭羽数の推移(畜産) 資料: 京都市農林統計



素材生産量の推移(森林) 資料: 京都府京都林務事務所



8 食料自給率(需要量に占める生産割合、重量ベース)
(平成18年度)



京都市の農林業マップ

